

平成30年(2018年)11月1日

保護者の皆様

豊能町立吉川小学校

校長 松田 寿春

「平成30年度全国学力・学習状況調査」結果および今後の取組みについて

秋も深まってまいりました。保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育推進にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、平成30年4月に本校6年生に実施いたしました「平成30年度全国学力・学習状況調査」の概況について、分析結果をまとめましたので、お知らせいたします。なお調査問題は文部科学省HP等でご覧いただけます。

【概要として】

今回の結果を通して、全国平均・大阪府平均との比較や過去五年間との比較だけに目を向けず、児童の課題は何か、どんな力をつけたらよいかを考え、児童の抱える課題に正対した取り組みを進めていきたいと思えます。

全体的に本校の結果は、国語A（主として知識）・国語B（主として活用）の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回りました。算数A（主として知識）・算数B（主として活用）の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回りました。理科（主として知識）（主として活用）の平均正答率は、全国平均・大阪府平均を上回りました。国語・算数・理科共に、基礎的な学力・知識・活用についての力がついているといえます。ただ、個別の教科領域や児童質問項目結果については、課題が見られる領域もありますので、それについて、以下で説明をさせていただきます。

【国語の結果から】（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力、◆考察）

- ◆言語についての知識・理解・技能の正答率については、全国平均をかなり上回る正答率のことが多い。
- ◆「学年配当漢字を正しく書く・読む」の正答率も高く、漢字学習の定着が図れている児童が多い。

《国語A》「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題」

- 「話す・聞く力」「書く力」「読む力」「言語についての知識・理解・技能」の領域で、全国平均を上回っている。
- 「主語と述語の関係に注意して文を正しく書く」問題で、正答率は全国平均を上回っているが、全体的に少し難問であったせいも本校児童の正答率も低く、「主語・述語の関係の間違っている文を選ぶ」ことでミスした児童が半数、選ぶことはできたが「正しい文に書き直せない」児童が半数という結果だった。
- ◆「言語についての知識・理解・技能」についての学習に、今後努めていく必要があるといえる。

《国語A「主として知識」で課題が見られた問題例》

- ・問題5：「文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く」

《国語B》「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」

- 「国語への関心・意欲・態度」「話す・聞く力」「書く力」の全ての領域で、全国平均を上回っている。
- 「読む力」の領域で、全国平均を下回っており、「メモを見ながら具体的な例を示し、文にまとめる」問題や、「話合いの内容を理解した上で、一定の条件をもとに自分の意見をまとめる」問題で、課題がみられた。

- 記述式の問題では、無回答も見られた。
- ◆文章や物語を読み取り、自分の考えをまとめ文に書く学習を、基礎から取り組む必要がある。
- ◆日常的に読む（読書）・書く練習、などの日々の授業の中での言語活動の充実（繰り返し習熟指導）が必要と言える。また、いくつかの条件を重ね合わせて複合的に考える問題への取り組みも必要と言える。

《国語B「活用問題」で課題が見られた問題例》

- ・問題3-1：「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む」
- ・問題3-2：「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」

【算数の結果から】（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力、◆考察）

○算数A・B共に、「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」の全ての領域で、全国平均を上回る結果だった。

- ◆「グラフやメモの情報から読み取ることができることを記述したり判断したりする」複合的な問題に、今後取り組む必要がある。

《算数A「基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかをみる問題」

- 全ての領域で全国平均を大幅に上回っているが、「円周率の意味の理解」と「小数の除法の理解」の問題で、本校児童の正答率は低い結果だった。

《算数A「主として知識」で課題が見られた問題例》

- ・問題2：「小数の除法の意味について理解する」
- ・問題7-1：「円周率の意味について理解する」

《算数B「基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題」

○「数学的な考え方」「数量や図形についての技能・知識・理解」の全ての領域で、全国平均を上回る結果だった。

- 全ての領域で全国平均を上回っているが、「数量関係」の「数学的な考え方」の領域において、「グラフから読み取ることができることを適切に判断する」の問題で、本校児童の正答率は低い結果だった。
- ◆グラフなどの資料を活用して考える「データの活用」については、新学習指導要領でも取り上げられる領域であり、この領域の習熟に努めていく必要がある。

《算数B「活用問題」で課題が見られた問題例》

- ・問題3-1：「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目して解釈し、記述する」
- ・問題3-2：「棒グラフと帯グラフから読み取る、適切に判断する」

【理科の結果から】（○…プラス傾向の力 ●さらにつけたい力、◆考察）

○「主として知識」「主として活用」領域で、「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・理解」領域で、全国平均を上回っている。

- 「主として活用」領域の、「安全に留意し、生物を愛する視点をもった観察方法の構想」で、全国平均を下回っている。
- ◆安全に留意し、生物を愛する視点をもって観察方法を構想できるようにするためには、生物に直接関わる実際の観察場面を保障し、安全への配慮や生物への影響について考える場面を設定することが必要である。実際に体験

して学べるような環境づくりの設定が今後の課題である。

- ◆複数の情報を基に分析したり関連付けながら考察することを身につけるために、児童が複数の情報を共有し、関連付けた話し合い活動を重ね、多面的に分析・考察することを重視した学習活動をすすめていく必要がある。
- ◆実験結果を基にした分析と問題に正対したまとめる力をつけるためには、言語活動をもとに文章を読んだり、自己の考えを記述したりする学習を日常的に取り組む必要がある。

《理科で課題が見られた問題例》

- ・問題 1-1 : 「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ」
- ・問題 2-4 : 「上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ」
- ・問題 4-3 : 「食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ」
- ・問題 4-4 : 「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導き出す結論を書く」

【児童質問紙から】（○肯定的評価 ●肯定的評価がマイナス傾向、考察は「今後の取り組み」にまとめて表記）

①学習・学習意欲に関して（本項目についての質問は、今回は算数・理科のみで、国語についての質問はなかった）

○「算数の勉強は好きか」「算数の勉強は大切だと思うか」「算数の授業の内容はよく分かるか」の質問で全国平均を上回る結果である。「授業がよく分かる」「勉強は大切」の項目については、全児童が肯定的評価をしている。

○理科についても同様に、「理科の勉強は好き・大切」「授業の内容はよく分かる」の質問で全国平均を上回っている。「授業はよく分かる」の項目については、全児童が肯定的評価をしている。「観察・実験を行うことは好きですか」については全国平均と同程度である。

○学校生活について、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問で全国平均を上回っている。

●理科についての項目で「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがあるか」と「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」については、全国平均・大阪府平均を下回っている。

⇒今後の取り組みA

②学校生活・自分自身のことについて

○「自分にはよいところがあると思うか」「将来の夢や目標をもっているか」の項目で、全国平均を上回っている。

○「先生は、あなたのいいところを認めてくれていると思うか」「人の役にたつ人間になりたいと思うか」では、全員（100%）が肯定的評価をしている。

●「学校のきまりを守っているか」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」は全国平均を下回っている。

⇒今後の取り組みB

③家庭での学習意欲、家庭での生活について

家庭での学習意欲について

○「家で学校の宿題をしていますか」に対して全員（100%）が「している」と答え、全国平均を上回っている。

- 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は全国平均を上回っている。
- 「授業の予習・復習をしている」は全国平均と同程度である。
- 「学校の授業時間以外に普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」については、全国平均と同程度である。
- 「読書を全くしない」と答える児童が、(吉小21.1、全国平均18.7)と、全国平均より高い(読書しない)傾向にある。
- 「新聞を読んでいるか」の質問項目で、毎日から月1〜3回程度読むと答える児童が(吉小21.1 全国平均38.9)と全国平均をかなり下回り、ほとんど読まない児童が(吉小78.9、全国平均60.9)と多い結果である。
- 「家庭での過ごし方で、テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりインターネットをしている」は、(吉小89.5、全国平均81.0)で、全国平均より高い(時間が長い)傾向にある。

家庭での生活について

- 「朝食を毎日食べていますか」は、全児童(100%)が「食べている」「どちらかといえば食べている」と答え、全国平均を上回っている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻におきていますか」は、全国平均と同程度である。
- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする」は、全国平均と同程度である。

⇒今後の取組みC

④地域との関わり等について

- 「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思うか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」は、全国平均を上回っている。
- 「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあるか」に対して、「よくある」と答えた児童は全国平均を上回っている。
- 「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」は、(吉小21.1、全国平均36.1)で、全国平均を下回っている。

⇒今後の取組みD

【今後の取り組みについて】

A 学習・学習意欲に関して

落ち着いた学習・学級集団・先生との信頼関係の中で、学習に意欲を持って前向きに取り組んでいることや真面目に丁寧に学習に取り組んでいることが、学力調査の高い数値にもつながっていると考えられます。

その中で、国語の「読む力」については、毎年、本校児童としての課題が見られます。「全ての教育活動において、言語活動を重点においた授業づくりを進める」ことに更に一層取り組んでいきたいと考えます。合わせて、読書は、人間が情報を得たり思考したり書いたり表現したりする基礎を養う大切な活動です。児童が読書活動を深めていけるように、指導のあり方について研究していきたいと思います。

算数については、基礎基本の定着は十分図られていることが調査結果の高い数値から読み取れます。活用問題も、かなり力をつけてきています。ただ、複雑で複合的な問題を解く力や、グラフなどの資料を活用して考える「データの活用」の領域の習熟に今後一層取り組み、児童の数学的思考力を育てていく必要があると考えます。

理科については、学習状況質問項目の「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがあるか」と「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」についての項目で全国平均・大阪府平均を下回ったことと、学力調査の「自然事象への関心・意欲・態度」領域の「安全に留意し、生物を愛する視点をもった観察方法の構想」で全国平均を下回ったことに、関連性があると考えられます。「自然豊かな吉川」と言われ、山に囲まれ、川が近くを流れ、田園が目の前にある恵まれた地域にも関わらず、それを生かした教育ができていないことは再考しなくてはなりません。吉川小学校が大切にしてきた「地域に学ぶ」「地域と協働した教育」「吉川学・とよの学」の良さを再考し、どうしたら少しでも子どもたちに自然体験や体験的な学びを保障できるのか、今後考えていきます。

B 学校生活について、自分自身のことについて

「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか」の質問に全員が肯定的回答をしている点から、教職員との信頼関係が保たれ、また安心して学ぶことのできる学級・学習集団がつけられていることが推察されます。

「学校のきまりを守っている」「いじめはどんな理由があってもいけない」の項目が、全国平均を下回っていたことについて考察します。「学校のきまりを守っている」の肯定的な評価は78.9（全国平均89.5）なので、全国平均よりは低いとは言え、約8割の人が「学校のきまりを守っている」と答えています。「廊下を走る」「挨拶を忘れる」「集合時間に遅れる」「授業中に私語がある」などについて、自分に問いかけてみると、（自分は、十分には守っていないな）と答えたのではないかと想像されます。

「いじめはどんな理由があってもいけない」の肯定的な評価は94.8（全国平均96.8）なので、全国平均よりは低いとは言え、約9割5分の人が「いじめはいけない」と答えています。この質問に対して、自らをふりかえり、（いけないことはわかっているが、人間関係の中にいじめは起こりうる）と考えたのではないかと想像されます。

決して「いじめ」を軽視しているわけでもなく、些細な人間関係のトラブルに対しても、本校教職員は児童の思いに耳を傾け、複数教職員で対応し、できるだけ早めの対応に努めています。「決まりを守らないでよい」とか「いじめは起こりうることをよし」としているわけではありません。本校児童が、学習にも学校のきまりにもとても真面目に真摯に向き合う良さからの結果であるのではないかとと思われるのです。今後も、人権教育や道徳教育の授業をはじめ本校の教育活動全般で児童一人ひとりの思いを聴き取り、児童も教職員も誰もが安心できる居場所のある学級、学校づくりを進めていきたいと考えます。

C 家庭での学習意欲、家庭での生活について

家庭での学習意欲について

児童全員が、「家で学校の宿題をしている」と答え、勉強を全くしないという児童はおらず、勉強時間は全国平均よりも長い傾向にあります。反面、「読書を全くしない」という児童の割合は全国平均より多いことが結果で表れています。児童自身が、家で読書することを子どものうちに身に付けることは、とても大切なことだと考えます。家庭で読書する大切さを伝え、読書の習慣づくりを家庭と連携して取り組んでいきたいと思えます。

加えて、「新聞を読んでいるか」については、新聞をとらない家庭も増えていることが想像され、新聞を読むことだけを質問項目にすることに課題があるともいえます。しかし、新聞を読むこと・社会に関心を持つことは、高学年児童には身につけておきたいことであるといえます。

また、放課後にテレビ・ビデオ・DVD・ゲーム・インターネットをして過ごす割合が全国より高めである結果を受け止め、ご家庭で使用時間や使用について約束を決める等、今後のご家庭でのご協力を期待します。

家庭での生活について

児童が朝食を毎日食べていること、「同じ時刻に寝る、起きる」などがかなり高い調査結果であり、ご家庭のしつかりとした基本的な生活習慣の安定を感じます。基本的な生活習慣の定着は、児童の学校での生活や心身の安定のために大切なことです。今後とも、ご家庭でのご支援とご協力をよろしく願いいたします。

さて、「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする」は全国平均と同程度ですが、この項目はこれまで吉小児童はととも高い評価をしてきた項目でした。それからすると、全国平均同等は、今までより下がっているといえます。

週末も習い事などで過ごす時間の割合が全国平均より高いこと、保護者の方がお忙しくなっておられることなどから、時間や親子で話す時間が減少しているのかもしれませんが、しかし、この結果から、子どもたちは「もう少し、親に話を聞いてほしい」と思っているのかもしれませんが。調査結果だけに左右されることはないかと思いますが、今一度、お子さんの思いや願いを聴いたり、一緒に過ごす時間のあり方を再考いただければと思います。

D 地域との関わり等について

「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」という問いにほぼ全員が肯定的に答え、「今住んでいる地域の行事に参加している」割合も高い結果でした。その反面「地域社会などでボランティア活動に参加したことがあるか」は低い結果でした。

地域の方たちのご支援ご協力のもと、様々な活動を行ったり、地域の行事や地域活動に参加したり、地域の方に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあると答える児童が多くいます。「ボランティア活動」については、本校児童は活動意欲をもっているものの、児童が能動的に関われる活動の機会があまり多くはないことによるものかと思われます。児童が地域の大人の方にしていただくだけでなく、児童自身が地域活動に関わる機会や場の設定が必要なのかもしれません。また報道でみたり聞いたりする「ボランティア」の果たす役割の大きさから、児童自身がそのような大きな活動はしていないと捉えたのかもしれません。

今後も、地域の方のご支援を賜りながら、本校としてできる地域との連携や地域の方などの授業支援を得て、授業や活動を深めていきたいと思えます。

調査結果から見えてきた児童の課題に正対した取組みを進めると共に、教職員一同、保護者・地域の皆さんと一緒に子どもたちの健やかな成長を見守り、支えていきたいと考えています。今後とも学校教育活動にご支援、ご協力よろしく願いいたします。